

第1回

昭和大学甲状腺フォーラム 学術集会

プログラム・抄録集

新世代にむかう甲状腺診療

会期 2019年 5月18日(土)

会場 昭和大学上條記念館
品川区旗の台1丁目1-20

会長 福成 信博 昭和大学横浜市北部病院
甲状腺センター長

90th
SHOWA University
至誠一貫 Since 1928



第1回昭和大学甲状腺フォーラム学術集会

ご 挨拶



第1回昭和大学甲状腺フォーラム学術集会

会 長 福成 信博 昭和大学横浜市北部病院
甲状腺センター長

風薫る五月となり、若葉の緑がすがすがしく感じられる季節となりましたが、先生におかれましては、日々、臨床、研究、教育などご多忙を極めておられると思います。そのようなお忙し中、第1回昭和大学甲状腺フォーラム学術集会へのご参加誠にありがとうございます。

今回が初回となる昭和大学甲状腺フォーラムは、国内外の甲状腺・副甲状腺領域の基礎研究者や臨床医、医療関係者が一同に集まり、甲状腺疾患、副甲状腺疾患の診断と検査・治療に関する最新の情報を収斂させ、そして甲状腺診療における臨床的問題点の検討を行う場として設立いたしました。また本年2019年4月より開設された昭和大学横浜市北部病院甲状腺センターとしての研究業績を発表する場としても考えております。

本フォーラムのメインテーマを「新世代にむかう甲状腺診療」とさせて頂き、伊藤病院顧問 高見博先生からは、ゲノム医療からみた新たな甲状腺診療について、成育医療センターの荒田尚子先生からは妊娠とバセドウ病に関してご講演頂きます。また、未だに懸念されることの多い福島原発と甲状腺に関して、福島県立医大の鈴木眞一先生から貴重なお話を伺える機会と考えております。本フォーラムでは、シンポジウムとして「甲状腺手術における医療安全、チーム医療」を開催致します。クリティカルな局面を迎えることのある甲状腺術後出血をテーマに多職種での議論を行い、明日からの甲状腺診療の現場において有意義な検討が出来るものと考えております。

昭和大学甲状腺フォーラムは、新設された「上條記念館」において記念すべき第一歩を踏み出します。これからも皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

参加の皆様へ

1. 受付開始

日時：2019年5月18日（土）午後1時～

会場：昭和大学上條記念館

2. 参加費

研究会参加費 2,000円

甲状腺フォーラム入会金 1,000円

3. 入会された方へ

研究会事務局に登録させて頂き、次回の研究会のお知らせなどを連絡いたします。

E-mailでの連絡が主体ですので、登録を宜しくお願いいたします。

4. 演者の皆様へ

• 発表時間

特別講演、会長講演：講演25分、質疑応答5分

シンポジウム：講演12分、総合討論あり

• PCプレゼンテーション

PC受付はございません。お持ちのPCまたはUSBでのデータを持ってPCオペレーターにお渡しください。

（動画使用の発表はPC持ち込みに限ります）

本研究会で準備するPCはWin10, PowerPoint (Office 2017) ですので、Macの方はアダプターを準備ください。

スクリーンセイバー、省電力設定を事前に解除願います。

PC用ACアダプターは必ずご持参ください。

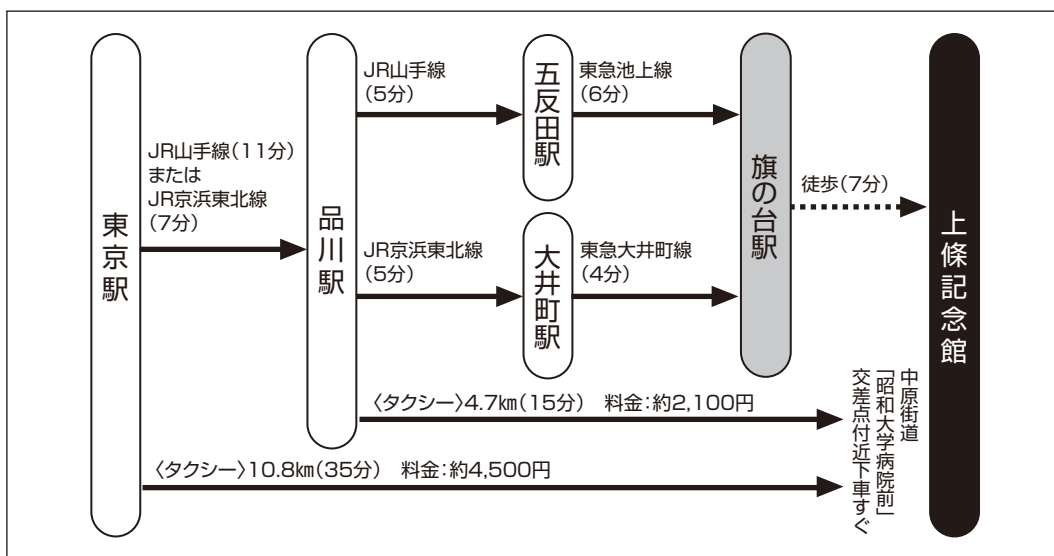
5. 会場内での撮影および録画は禁止いたします。また携帯電話はマナーモードまたは電源をお切りください。

会場アクセス図

旗の台キャンパス周辺図



主要駅からのアクセス

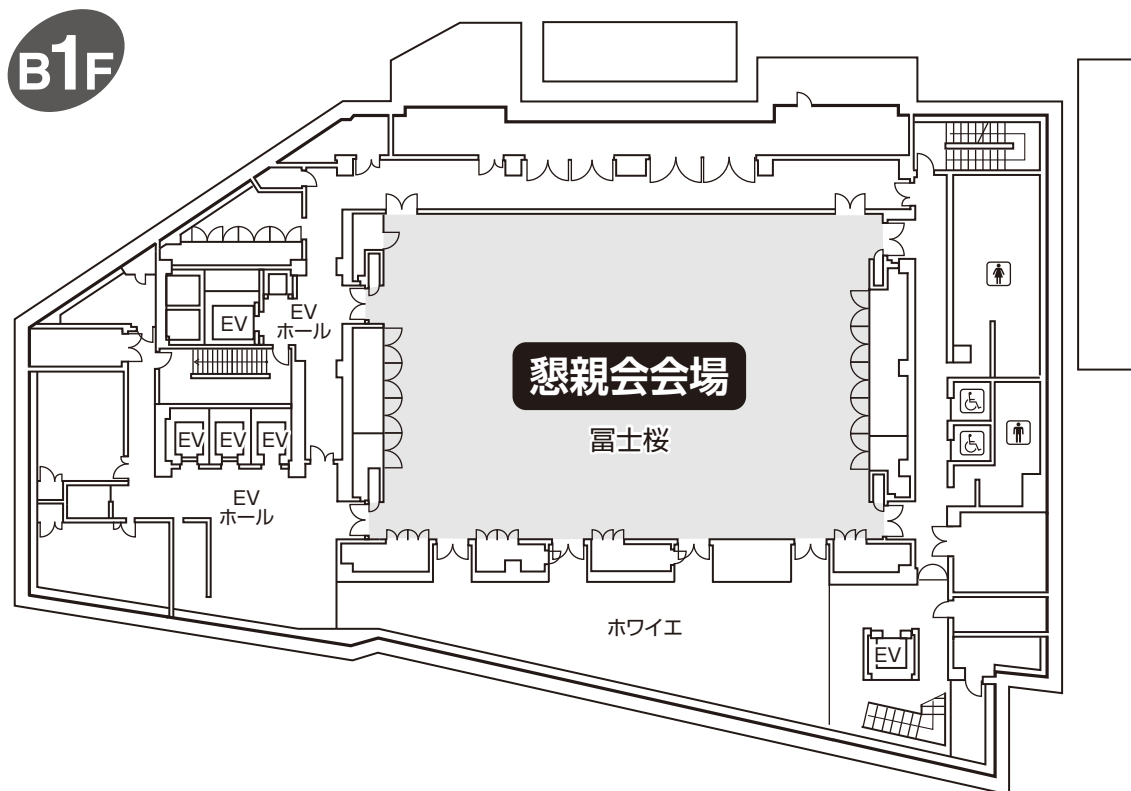
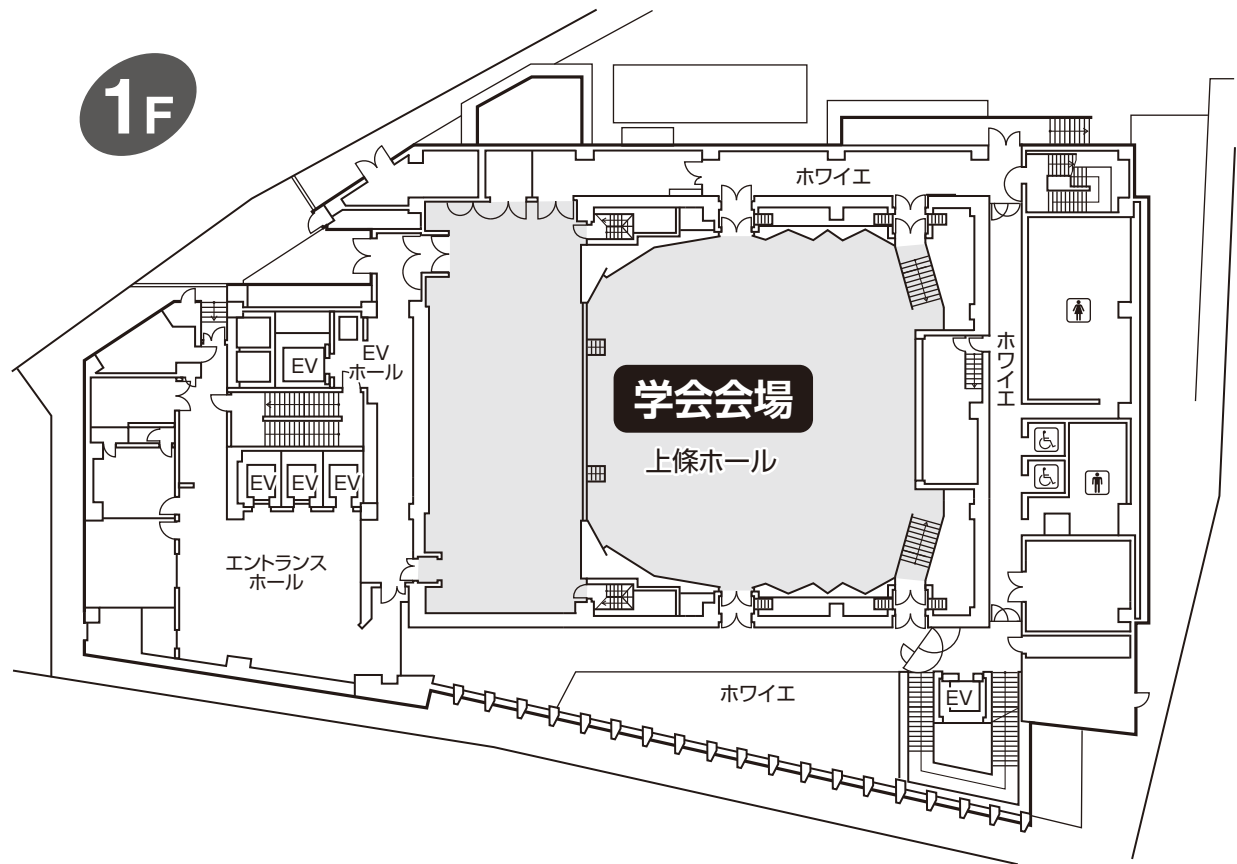


- 東急池上線・大井町線「旗の台駅」から徒歩 7分
- 東京メトロ南北線・都営三田線直通 東急目黒線「西小山駅」から徒歩 12分

会場フロア図

昭和大学上條記念館

東京都品川区旗の台1丁目1番20号



プログラム

2019年5月18日(土) 会場：昭和大学上條記念館 1階 上條ホール

13:00～ **開 場**

14:00～ **開会の辞**

14:10～14:40 **特別講演 1**

座長：中村 清吾(昭和大学乳腺センター 教授)

Precision Medicine：次世代シーケンサーを用いた 甲状腺がんの診断と分子標的薬治療

高見 博 伊藤病院 学術顧問

14:40～15:10 **特別講演 2**

座長：関沢 明彦(昭和大学産婦人科 教授)

妊娠とバセドウ病

荒田 尚子 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
周産期・母性診療センター 母性内科 診療部長

15:10～15:40 **特別講演 3**

座長：野口 靖志(野口病院 副院長)

福島原発事故後の発見された小児若年者甲状腺癌について

鈴木 眞一 公立大学法人福島県立医科大学医学部 甲状腺内分泌学講座
主任教授

15:40 **休 憩**

甲状腺センターの目指すもの

福成 信博 昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター長、
外科系診療センター長 外科教授

座長：上條 由美(昭和大学 理事)

福島 光浩(昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター 外科)

[甲状腺手術における医療安全、チーム医療]

Overview

甲状腺・副甲状腺手術における術後出血
～医療安全調査機構警鐘事例から～

福島 光浩 昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター 外科

S1 Rapid Response System は甲状腺外科術後頸部血腫による心停止回避に有用か？

新井 正康 北里大学医学部附属新世紀医療開発センター、
横断的医療領域開発部門、
侵襲制御・生体危機管理医学(集中治療医学)

S2 甲状腺術後出血の早期発見・早期対応とチーム体制整備について

佐々木 仁美 昭和大学横浜市北部病院 看護部

S3 甲状腺・副甲状腺手術における退院後に後出血を発症した症例の検討

新田 早苗 隈病院 看護本部長 安全管理室長・認定看護管理者

閉会の辞

抄 録



Precision Medicine：次世代シーケンサーを用いた 甲状腺がんの診断と分子標的薬治療

高見 博 伊藤病院 学術顧問

略 歴

1970年	慶應義塾大学医学部 卒業
1970年	慶應義塾大学医学部 外科(助手)
1970年	横須賀米国海軍病院(インターン)
1977年	Baylor College of Medicine, Houston (Research Associate)
1978年	Department of Surgery, M.D.Anderson Hospital, Houston (Visiting Assistant Professor)
1979年	慶應義塾大学医学部 外科 (医長補佐)
1986年	慶應義塾大学医学部 外科講師 (非常勤)
1986年	帝京大学医学部 外科
1991年	同上(教授)
2004年	東京大学大学院外科 講師(非常勤)
2007年	帝京大学 外科(主任教授)
2011年	伊藤病院 学術顧問 帝京大学外科 名誉教授・客員教授

主な内分泌関連学会役員

1994年～現在	American Association of Endocrine Surgeons
1999～2011年	日本内分泌学会 理事
2015年～現在	同 名誉会員
2000～2003年	日本内分泌外科学会 理事長
2001～2011年	日本甲状腺学会 理事
2015年～現在	同 名誉会員
2003年～現在	International Association of Endocrine Surgeons
2005～2011年	日本甲状腺外科学会 理事長
2006～2012年	日本内分泌外科学会 理事長
2012年～現在	同 名誉会員
2012年～現在	日本臨床内分泌病理学会 名誉会員

主な内分泌以外の学会役員

1995年～現在	American College of Surgeons (Fellow)
2008～2013年	日本外科学会 理事
2013年～現在	同 特別会員
2011年～現在	日本内視鏡外科学会 特別会員
2011年～現在	日本消化器外科学会 特別会員
2011年～現在	日本臨床外科学会 特別会員

2008年頃から次世代シーケンサーという超高速にヒトのゲノムのDNA配列を解読する装置が開発され、がんの個別医療[precision medicine(精密医療)]が行われてきた。この多遺伝子検査の結果、薬剤との効果に分かる遺伝子を調べて有効な薬剤を選択することができる[コンパニオン診断(CoDx)]。癌腫を超えて腫瘍のゲノムプロファイルで薬剤が選ばれる。現在、日本で用いられている主ながん遺伝子プロファイル検査は次世代シーケンサー FoundationOne CDx と国立がん研究センターの遺伝子パネル検査システムである。慶應義塾大学病院においても「PleSSision--Rapid 検査」が行われている。160遺伝子を検査し、患者に検査費用を求めている。

甲状腺がん領域では次世代シーケンサーにより、ハイリスク DTC や ATC では、機能欠損変異体やコピー数の減少、遺伝子変異が観察されている。組織型+分子病理ファイリングという面では、同じ組織型の腫瘍でも生物学的悪性度が異なるため、ドライバー遺伝子検査に加え、機能分化因子、プログレッション関連分子、治療標的分子などをプロファイルして、よりの確な個別診断ができる。日本では進行甲状腺癌に使われている分子標的薬としてはマルチキナーゼ阻害として sorafenib, lenvatinib, vandetanib がある。「分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果対策のためのコホート研究(COLLECT、実行委員長：高見博)」が行われている。また、分子標的薬の導入のタイミング、有効性、副作用対策などには多くの報告がありここでは割愛する。Lenvatinib に特徴的なこととして、甲状腺がんでは体重と用量に強い相関がないことから一律 24 mg が投与基準となっている。しかし、肝細胞癌では分子標的薬としては初の「体重別投与量」が行われている。甲状腺がんは遺伝子変異とマッチする 경우가多く、ほかのがんよりも heterogeneity が少ない。問題になるのは遺伝子変異の時系的变化による 薬剤耐性 の獲得である。現在、外国で注目されている薬剤として BRAF 変異 PTC に対する Vemurafenib がある。また、BRAF 変異 ATC において Dabrafenib (BRAFi) と Trametinib (MEKi) の併用療法は FDA に承認された。また、RET 融合遺伝子変異陽性の甲状腺がんに対する LOXO-292 は FDA により画期的治療薬(Breakthrough Therapy)に指定された。免疫チェックポイント阻害薬 との併用療法、リキッドバイオプシー についても論じる。

【まとめ】次世代シーケンサーを用いてがん関連遺伝子と融合遺伝子を検出し、コンパニオン診断に見合った治療薬をみつけていく。しかし、それには多額の費用がかかる。現時点では臓器別の治療で、近未来的には臓器横断的なバスケット型の臨床が行われなくてはならない。

A series of horizontal dashed lines for writing.

第1回昭和大学甲状腺フォーラム学術集会 プログラム・抄録集

会 長：福成 信博（昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター長）

事務局：昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター

事務局長：福島 光浩（昭和大学横浜市北部病院 外科准教授）

〒224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1

TEL：045-949-7000 FAX：045-949-7117

E-mail：thyroid@med.showa-u.ac.jp

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://secand.jp/>

